



いぬづか写真室に勤務して
もう18年が過ぎます。
学生時代、ボクは営業写真コース
彼女は映像学科。
学校では彼女しか見てなかった。

桐原 盛尚 × 教子 × 実 × 花 × 生

UP! SPECIAL HAPPY is FAMILY vol.1

UP! SPECIAL
HAPPY is
FAMILY

夫は写真学科、妻は映像学科の卒業生
結婚してもう17年

今はインターネットからありとあらゆる情報が流れてくる。それが便利だとも思うし、カッコいいとも思う。しかし、ネット情報は本物だろうか。自分の居場所を見つけにくいのネットである。なんとか自分を確保しようとネットに割り込んでくる。

先日、尼崎に暮らす桐原さんのお宅を訪ねた。そこで見たモノは家族のスタイルは平凡だが非常に日本的で近代的で爽やかなモノであった。どの家庭にも様々なシアワセのパターンがあると思うが、この桐原家の普通のスタイルはカッコ良かった。そこには何か特別なモノがあるわけでもなく、お母さん（桐原教子）が笑うから、お父さん（桐原盛尚）が笑う。それを見て一番上のお姉ちゃん（実ちゃん16歳）が微笑むから、次の女の子（花11歳）の表情が緩む。その輪の中を一番下の小学2年生の長男（生君8歳）が跳ねる。お母さんもお姉ちゃんも化粧の

香りなんかひとつもしない。時代を追いかけない感覚が嬉しくも愉しくも感じられた。

お父さんは写真学科を1995年に卒業した。お母さんも同じ年に映像学科を卒業した。二人ともSHASEN出身である。お父さんの実家は熊本で営業写真館を営んでいる。実家は次男が継いでいるという。次男もSHASEN出身である。本人は（株）いぬづか写真室に卒業後から勤務を続けている。家族のみならず頼られて信頼を集めているお母さんが言った「このひとはお母さんの専門学校時代の担任の先生よ」

子どもたちの目が輝いたのが嬉しかった。

現代のネット社会の世界観から少し距離を置いた肌感覚で生きる新世代のストーリーに触れることができた爽やかな夜でした。

（は）



いつまでも仲のいい夫婦でいるコツはありますか？
の問いに彼女は笑いながら言った「感謝することかなあ」
そばで聞いている彼は嬉しそうに頷く。
そうですね、「思いやりと感謝の気持ち」なかなか照れくさくて言葉に出すのは難しいかもしれません。
縁があって結婚したのです。子どもがこんなにも大きくなりました。いつまでも夫婦円満で過ごして下さい。